

令和5年(2023)年度事業報告書(14期目)

令和5(2023)年4月1日から令和6(2024)年3月31日まで

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

0. 当会のミッションとビジョン

ミッション:若者の力を活かして地域の活性化/課題解決を加速する

ビジョン:それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動にあふれた社会

1. 中期計画(2023~2026)基本方針:

- ①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実(若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)
- ②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデルの確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境が整い始める。
- ③若者の挑戦によって生まれる“ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり

2. 事業の成果 定量的成果

(1)提供者数

	14期 R5年度.2023.04-2024.03		13期 R4年度.2022.04-2023.03		累計(2010~)
	2023年度	対前年比	2022年度	対前年比	
提供者数(人)	4,881	▲753	5,634	597	48030
協力者数(人)	333	▲56	389	▲122	4,740
活動時間(時間)	13,578	▲1,723	15,301	▲7,563	166,903

●ワークショップや講演等の依頼増加によりプログラム提供者数は前年比でも大きく増加している半面、協力者及び活動時間については前年比で減少した。

関係性を深めることに重点をおいた若者のコミュニティ形成を進めた一方、若者の掘り起こしや協力者の巻き込みが弱くなってしまった。スタッフが若者と個別に関わり育むプログラムだけでな

く、地域ニーズや願いをプログラム化し、若者の成長機会また関係構築の強化に展開できるように、外への意識と行動を高めていく必要がある。

(2)情報アクセス数

	14期 R5年度2023.04-2024.03		13期 R4年度2022.04-2023.03		累計(2010～)
	2023年度	対前年比	2022年度	対前年比	
HP PV	124,091	—	サイト更新のため未集計	-	368,993
あしかも PV (2020.11～)	91,326	27,929	63,397	7,074	222,029
合計PV	215,417	152,020	-	-	1,389,411
FBフォロワー数(人)	2953	49	2904	282	2,953
Instagram フォロワー ※ユース	261	2024.1より 開始	-	-	261
Twitter フォロワー数 (人) ※ユース	1643	27	1616	61	1,643
LINE 公式 有効登録 者数	278	▲14	292	▲16	278
Instagram フォロワー 数(人)※あしかも	1042	174	868	205	1042
Twitter フォロワー数 (人) ※あしかも	960	103	857	234	960
メディア掲載件数(件)	13	7	6	▲4	290

地域と繋がる若者の掘り起こしを行う「あしかもメディア」のアクセス数の増加に加え、SNSのフォロワーも順調に伸びており、若者に向けて情報発信力を高めることができた。しかしながらメディア掲載など、社会に働きかける広報は減少傾向が続いている。

スタッフが入れ替わり、活動の効果、社会的波及等の意義にあるメディア掲載に価値の浸透が行き届いていない。またPRTIMEのNPO無償利用ができるものの、具体のプレスリリース等の細やかな対応に手が回っていない。若者を動かす広報と社会を動かす広報の両立が課題である。

(3)決算概要 ※詳細は活動計算書をご覧ください。

	14期 R5年度.2023.04-2024.03		13期 R4年度.2022.04-2023.03	
	2023年度	対前年比	2022年度	対前年比
収入計	42,019,110	1,351,211	40,667,899	1,266,990
うち会費・寄付	1,919,742	64,217	1,855,525	▲751,266
事業収入	11,917,914	3,639,884	8,278,030	▲1,478,212
行政委託事業	25,778,450	▲2,120,600	27,899,050	861,174
助成金・補助金	850,000	▲689,802	1,539,802	1,539,802
支出計	42,188,149	1,010,465	41,177,684	2,230,750
うち人件費	22,677,545	860,280	21,817,265	233,750
当期経常増減額	▲169,039	340,736	▲509,775	▲963,750
過年度損益修正損	0	0	0	0
(法人税等)	184,800	64,100	120,700	▲820,200
当期正味財産増減額	▲353,839	276,636	▲630,475	▲143,550
前期繰越正味財産額	5,668,641	▲630,475	6,299,116	▲486,925
次期繰越正味財産額	5,314,802	▲353,839	5,668,641	▲630,475

増収となったものの、会費・寄付、自主事業収入は目標予算を達成できなかったことに加え、業務委託費などの支出も増加したことにより経常利益は減少した。

各事業の収支管理また業務マネジメントができておらず、また職員の若返りもあり受託業務を実施しながらの自主事業運営の両立が難しかった。また支出においては、積極的に外部パートナーとの事業運営を展開した結果、業務委託費が高まったことに加え、支出管理ができていなかった。

次年度は、各事業毎の収支管理とスタッフ1人1人のコスト意識と資金調達意識をもって取り組んでいく。

(4)組織体制 R5(2023)年度

運営会員数 47名 (+13名)

賛助会員 30名(11名)

賛助企業・団体 13組(+8組)

寄付者数 168名

スタッフ数

(役員兼務3名 ※前年度3名) 岩井俊宗、古河大輔、渡邊貴也

(常勤3名 ※前年度3名) 森谷真依、中山裕貴、篠原悠太

長期インターン生5名 ※前年度11名)

青山翔(宇都宮共和大学3年)、有田和貴(帝京大学3年)、

小野雅治(大正大学3年)、酒巻大雅(宇都宮大学3年)、馬場真里奈(横浜国立大学3年)、

3. 2023~2026年度基本方針(2023.6総会承認)について

(1)基本方針(2023~2026)

①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実 (若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデルの確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整え始める。

③若者の挑戦によって生まれる“ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり

⇒ユース中心で若者を育むのではなく地域全体で育む。ユースは、挑戦する若者が成長する舞台をつくり、その舞台に登場する若者と応援する支援者を増やす役割を固め、若者が外(当会以外)でもまれて育まれるように。当会が外と繋がり、外を育み、連携し、挑戦する若者を育む。そして若者が地域を変えていく実態を各地で創り出していく。

2026年6月の景色は当会スタッフ以外が、若者の挑戦支援に関わり、当会エリア以外でも、20代、30代の社会をよりよくしていく挑戦者が活躍している状態。(当会では各コーディネート機関を支える役割も検討)。(ユースは若者と地域を変化させる(みんなが使える)インフラ的触媒)

(2) 取り組むべき課題(2023~2026)

① 変えるべき社会状況(社会的課題)

- i 挑戦を始める若者たちのリソース不足(応援者、資金、ノウハウ、メンター、支援者)
- ii 自分でも社会を変えられるという自信を持った若者が少ない
- iii 社会貢献の志を持つ若者(社会に役立つ何かをしたいと思っている若者)は多い一方で、実際に行動している割合は少ない
- iv 社会課題が可視化されていない
- v 若者の参画提案ができ、若者の成長にコミットできる外部組織の育成
- vi 県内で育まれた挑戦意欲の高い若者が活躍の場として県外(首都圏)に出てしまう。戻ってくる、また2拠点活動など関わり仕掛けが不足。
- vii 若者、特にコロナ期の大学生において社会体験(他者頼られる・感謝される経験)の不足、他者と協力して成し遂げる経験の不足、他者との人間関係の希薄化、友達コミュニティの中での生活、簡易に欲しい情報にアクセスできる環境が、自分で決める力、他者の相談・協力を求める力の低下、知らない世界に出会うエネルギーを使わず目指すものや使命感など持たない(持てない?)傾向がある。やりたいことが見つけられない事に対して自己否定を持つ悪循環。社会ではイノベーションやスタートアップを求めているが、若者自身の挑戦意欲は壊滅的な状況。一方で、ごく一部の若者に限っては、起業等が就職と同等の選択肢になっている傾向も感じている(公務員志望は未だ多いが)。

② 若者を取り巻く現状と課題

- i 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、家庭・学校以外とのコミュニケーションが激減したことにより、自分に自信が持てず将来に漠然とした不安を抱えた若者が増加しているとみられる
- ii 一方で各教育機関でのまちづくり参画のプログラムや地域系学部の創設などの影響により、高校生や大学生の地域活動への参加機会は増えている
- iii 対面でのコミュニケーション機会の減少とは相反的に、ソーシャルメディアやAIを活用したツールが充実したことにより、情報収集や情報整理について非常に優れた能力を持っている。伴って時間対効果の低い行動選択を避ける傾向も見られる。

③ 当会が生み出したい若者の変化

- i 自身の主体的な行動や発言によって社会に良い影響を与えられることを認識することで、社会とのつながりと責任を自覚し、属する組織や社会の課題解決に向けた行動を取れる状態
- ii 自身の持つ可能性と社会に希望を持ち、自己実現に向けた行動選択を行うことが出来る状態

④ 当会が創り出したい社会変化

(以下を通して地域の課題解決/活性化が加速している状況を作り出す)

- i 当会以外の組織や個人が若者となら社会をもっとより良くできそう・何か面白いことをできそうという期待と選択し持ち、若者との関わり方が上手な団体(若者の成長と若者を巻き込んだプロジェクトの成功にコミットできる団体)が増えている
- ii 挑戦する若者を育むための情報、資金、応援者、ノウハウ、メンター等が整っている
- iii 社会活動を行う若者が掘り起こされていて、若者と共に行うソーシャルプロジェクト数を増加させることで、社会活動を実施する若者の数が増加している
- iv 自分でも社会を良くすることができるんだと実感している若者の数が増加している

(3)組織内の内部環境の認識について

当会の特徴、強み/弱み (スタッフ間 2023.4)

<強み>

- ・何かしたい若者が集まってくれること
- ・若者への情報提供に加えて、参加の一手、プロジェクトへの合流(インターン)など、意欲や行動を育むことができる。
- ・社会課題解決を事業として取り組む若者たちを育み、地域に輩出することができる。
- ・多様なステークホルダーと連携し、新しい社会的要請に対し、プログラムを開発、運営することができる
- ・会員、寄付者など若者また当会を期待し支えてくれる方が増えている。

<弱み>

- ・収益(事業)モデルが安定化できていない。
- ・職員が定着せず、組織体制が弱い。

- ・自主事業、寄付協賛など自主財源比率が低いまま。
- ・経営、事業管理に集中できていない。

(5)重点事業(2023~2026)とその評価

中期計画基本方針	重点事業(2023~2026)	2023年度評価(中期計画1年目)
<p>①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実 (若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)</p>	<p>■若者が主体的に未来を創る行動をしている状態にするための支援機会の充実と深化 ◇明確なKPIの設定と出力数の増加 ◇社会活動を行いたい若者の掘り起こし ◇若者が参画できるプロジェクト数、参画する若者数の増加 ◇若者のプロジェクト支援(iDEANEXT、伴走支援) ◇コミュニティ形成と機能化(①若者社会接点コミュニティ、②本気育成支援コミュニティ) ◇支援者拡大と支援価値の可視化と実感の向上 ◇認定NPO法人の取得と民間企業からの支援</p>	<p>概ね実施、着手できている。 ・若者コミュニティ「よりも。」の開始 ・認定NPO法人に向けた寄付集め(168名の寄付、2024年6月申請予定) ・NPO合宿を通じて、組織を越えた社会的課題・新たな仕組みの議論を実施。 ・県内に若者支援団体と、新たな支援プログラムを開発研究実施する「とちぎ若者未来会議」の再始動 ・若者の行動化、地域参画を促す行政事業の受託・実施・提案(ミライらぼ、ユースチャレンジ事業、農村ファン事業)、 ・地域づくりフェア、個別コミュニケーション(若者アタックリストの整備、社内共有化)、認定NPO法人化に向けたファンドレイジングの実施など、独自の活動展開を実施。 改善すべきところとして、KPIが設定しきれておらず不十分である。 例):若者が参画するプロジェクト数、参画する若者数</p>

<p>②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。</p>	<p>■内部体制の見直し等 ◇事業フローの確立、蓄積的ビジネスモデルへの転換への検討 ◇ブランディング強化 ◇組織力強化、ガバナンスの強化 ◇会員参画、コミュニティ化支援 ◇スタッフ育成(プロジェクトマネジメント、インキュベート、コーディネーター、ファシリテーターレベルの引き上げ) ◇チームマインドの統一・醸成</p> <p>■外部コーディネート機関や人材の育成</p>	<p>一部実施・着手したものの、全体としては進み切れていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓄積的ビジネスモデル構築、ブランディングの強化、ガバナンス強化については、特に進めることができなかった。 ・若手スタッフが他のNPOと課題を議論するなどの交流や育成(NPO合宿)や、会員とのコミュニケーション(会員交流会、事業進捗報告会など、会員のコミュニティ化に加えて、スタッフの外への意識また資源接続を行った。 ・WEBページの改定 ・有給・代休申請整備 ・マンスリーサポーターの獲得 0→9名(目標15名には不達) <p>改善としては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンスの中心ルールとなる規約等整備が進まなかった(規定、役割分担、運用)
<p>③若者の挑戦によって生まれる“ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり</p>	<p>■“ソーシャルインパクト”のための“共創”機会の創出の検討 ◇ソーシャルデザインイニシアティブプログラム(仮)の実施</p>	<p>NPO合宿を通じて、開催への意向確認、目的・展開イメージを得た。</p>
<p>⇒(全体総括) 多様な事業パートナーとともに若者と地域を繋ぎ育む施策の展開を通じて、若者との関わりを深め、成長や行動化を支えることができた。また彼らの中には「よりも」コミュニティの中心人物として、前進もうとする若者を集い高め合う主体的な活動を行っている。「よりも」に関わる学生・若者がその周囲を巻き込む動きもしており、当会職員以外にも若者を地域に連れ出す人材、機会が広がっている。NPO合宿や未来創造会議など、他のコーディネーター団体とも連携し、相互の情報共有や仕組み・仕掛けづくりの議論も始まり、当会だけで閉じず県域での若者×地域づくり環境にも動き出すことができた。若者の変化や成長への意識と同様に、若者の力の活かしどころである地域社会の「願い」「要請(ニーズ)」に応じていく動きについては、その接点や地域への入る動きが弱い。地域と若者を繋ぎ、地域で若者が生まれ、地域に新しい価値を創出していく、その仕掛けをつくり育むコーディネーターとしての動きをより踏み込んで実施していきたい。</p>		

また事業全般として、若者成長支援業務よりも、「共創」をキーワードする「組織を越えた連携や新たなアクション化」や「社会の新しい仕組みのデザインと実装化」、「ネットワーク型休眠組織の再構築」への比重が高まっている。これまで進めてきた地域のニーズに若者が参画できるプログラムの開発運営に加えて、広く社会や未来を見通し、多様なプレイヤーが活躍できるデザインと実装化していく力が求められていると感じている。

組織全体として、事業を担当制にしており、それぞれの判断で動ける裁量を持たせているが、法人共通の管理業務への優先順位が引きあがらず、内部管理、バックオフィス機能が弱さが続いている。単に人員の不足だけでなく、内部管理を組み立て、業務の指導また評価する機能が弱いことが課題であり、役割の明確化、基本ルール(マニュアル)の明文化、職員の成長、外部支援などの打ち手に取り組む必要がある。

4. 事業の実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係る事業

事業の種類(定款)	事業群	事業内容 (事業パートナー)	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の支出金額(千円)
①社会事業を行う人材育成事業	実践型インターンシップ事業	・企業1日訪問プログラム「WORK TRIP」 実施回数:1回 訪問企業:株式会社オニックスジャパン ・あしかもライターインターンシップ 参加人数:7名	通年	栃木県内	5名	プログラム提供数297回(件) 大学生、地元中小企業、地域団体等 延308名/1,303時間	634
	起業・創業ネットワーク事業	若者の社会をよくするスタートアッププログラム「IDEA→NEXT」【継続、独自】 社会をよくするアイデアを持った若者たちの行動化、継続化の支えるインキュベートプログラム。	4月~1月	事務所 栃木県青年会館	6名	全体プログラム提供数22回 社会を良くするアイデアを持った39歳以下の若者 延111名/445時間	1,145
	若者人材育成	地域づくり担い手育成事業【継続】(栃木県地域振興課) ①担い手育成プログラム:地域づくりに関心を持つ若者等が県内の地域活動の実践者や団体の活動に活動参画し、経験を積み終了後の継続的な関わりにつなげていく。 ②担い手支援プログラム:地域づくりの実践に携わる者に対して、団体の立ち上げから安定的な運営に役立つ手法や先行事例の紹介、実践者同士のネットワークを構築するため、グループワーク等も取り入れたプログ	4月~3月	栃木県内各地	3名	プログラム提供回数16回 地域づくりに関心がある若者、県内の地域づくり活動団体延べ386名/684時間	16,017

		ラムを提供し、継続的な活動につながる支援を行う。					
		宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」【継続】(宇都宮大学) 社会を多角的に捉え、自身の目指すもの、地域リーダーとしての素養を育む研修を実施。	6月～11月	宇都宮大学	3名	プログラム提供数20回 県内社会人 延べ353人/787時間	
		宇大未来塾「次世代経営マネジメントプログラム」【継続】(宇都宮大学) 不透明で不確実な社会の中、新たな価値の創造に必要な経営的視点、戦略的思考、マネジメント能力とネットワークを獲得し、変化の加速度を高めていく次世代の経営人材・社内リーダー育成プログラム	12月～3月	宇都宮大学	2名	プログラム提供数19回 県内経営者・経営幹部 者 延べ150名/474時間	
		☆とちぎ若者未来デザイン事業「ミライlab」【新規】(下野新聞社) 29歳以下の若者が栃木に住み続けたく未来とそのため議論・実践し、提案する。	6月～2月	県内各地 総合文化 センター	2名	プログラム提供数50回 延べ205人/778時間	
		☆地域づくり交流会【新規、独自】(助成:とちぎコープ) 高校生、大学生を対象に、地域づくり実践者と関わる交流会の実施	6月	宇都宮大学	2名	プログラム提供数:3回 延べ88人/275時間	
		星の杜中学校・高校学習支援コーディネート事業【継続】(星の杜中学・高等学校) 大学生が支援者となり、中学生、高校生への学習支援を通じたロールモデルや斜めの関係構築を実施。	通年	星の杜中学校・高等学校	1名	プログラム提供者数: 6人/延べ220人	
		まちなか大学【継続】(宇都宮市創造都市研究センター) 市内大学と連携し、大学の研究・授業内容を社会人にも提供し、学び直しを進めていく。	9月、10月	イエロー フィッシュ	1名	プログラム提供数 4回 延べ45人/90時間	
ソーシャルプロジェクト支援事業	ソーシャルプロジェクト支援	令和5年度滞在型グリーン・ツーリズム推進事業 ①グリーンツーリズム組織作り事業 ・研修開催(2回) ・分科会運営(2件) ※会員の現地視察会含む	8月~3月	栃木県内	2名	プログラム提供回数8回 延べ149名/638時間	11828

	<p>②長期滞在モデル構築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を面的にとらえた高付加価値サービス検討に向けたワークショップ「いちごつながりグリーンツーリズムワークショップ」企画運営 ・グリーンツーリズムモニターツアー「とちぎSDGs遊学」企画運営 					
	<p>とちぎデジタルハブコーディネート事業【継続】(栃木県デジタル戦略課)</p> <p>県内の地域課題を住民がホームページに課題投稿し、その課題をデジタルの力を使い個人や企業が協働して解決に導いていく事業</p>	6月～3月	栃木県内	2名	プログラム提供数16回 延べ212人/280時間	
	<p>西地区支え合い活動【継続、独自】(西地区ひまわり協議体(第二層協議体) 助成:積水ハウス)</p> <p>地域の中学生、高校生を担い手として、高齢化、孤立化している地域住民の暮らしのお困りごと解決を実施</p>	通年	宇都宮市	2名	プログラム提供数5回 延べ30人/280時間	
	<p>宇都宮市移住定住相談窓口運営サポート業務</p> <p>宇都宮駅東の移住定住相談窓口「miyacom(ミヤカム)」職員向けの研修及び移住関心層向けの御ライトトークイベントと1日現地訪問イベントの企画運営</p>	5月～3月	宇都宮市内	3名	<ul style="list-style-type: none"> ・研修(計5回) ・オンラインイベント(計3回) 参加者21名 ・現地訪問イベント(計3回) 参加者21名 	
	<p>県スタートアップ企業支援事業【継続】(栃木県経営支援課、有限責任監査法人トーマツ)</p> <p>社会課題解決の志しアイデアを持つ社会人を対象に、事業化に向けた育成、伴走支援の実施</p>	5月～2月	宇都宮市	1名	プログラム提供回数2回 参加者 56名	
	<p>下野市公民連携推進事業【継続】(下野市、NPO法人青二才)</p> <p>下野市全体をキャンパスに『シモツケ大学』や公共空間の活用社会実験「まちあそび部」や誰でも立ち寄れる地域の居場所「シモ学オープンスペース」を通してまちと人がつながる場づくりを展開。</p>	4月～3月	下野市	1名	プログラム提供回数84回/日 参加者のべ人数314人	

		<p>ヤングケアラーに関する啓発イベント事業【新規】</p> <p>高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族や身近な人の世話を担う18歳未満のこどもである、いわゆるヤングケアラーを社会的認知度の向上や支援を実施。</p>	12月～3月	栃木県	1名	<p>プログラム提供回数 3回</p> <p>参加者のべ人数 239人</p>	
		<p>ユースハウス:</p> <p>空き家を当会インターン生及びNPO法人キーデザインに貸し出し</p>	通年	栃木県内	1名	<p>入居者1名</p> <p>入居団体 1団体</p>	
		<p>aret管理運営【継続】(光琳寺)</p> <p>コワーキングスペースaretの管理運営を行い、新たな挑戦を支える。</p>	通年	宇都宮市 西原	6名		
		<p>うつのみや未来創造プロジェクト“みやプロ”:</p> <p>宇都宮市における行政と民間の若者による共創事業プラットフォーム構築に向けたプロジェクト運営の助言及び実施サポート</p>	通年	宇都宮市 内	2名	<p>プログラム参加者(行政職員、市内在住・通勤者)34名</p>	
社会事業に関する相談/アドバイス事業	社会事業に関する相談/アドバイス事業	<p>講演</p> <p>(文星芸術大学、宇都宮共和大学、芳賀教育事務所、河内地区教育事務所、河内地区連合自治会、栃木県農村振興課、県北自治会連合会、芳賀社会福祉協議会、新潟県教育委員会、三重県地域振興局、茨城県銚田高校、茨城県生涯学習課、)</p>	通年	栃木県内	1名	<p>提供数:61回</p> <p>提供者数: 県内社会人・大学生 延べ1,534名/3,744時間</p>	
情報発信事業	情報発信事業	<p>あしかもメディア【継続、独自】</p> <p>若者と地域の魅力的なヒト・モノ・コト・シゴトを繋げるオウンドメディア。</p> <p>学生、若手社会人もインターン生として活躍</p> <p>: A: あしかもメディア pv B: twitter(あしかも) C: Instagram(あしかも)</p>				<p>A:91,326pv (+27,929) B:960(+103) C:1,042(+174)</p>	2000
		<p>会報、レポート制作業務【継続】</p> <p>外部プロジェクトのレポート記事の作成</p> <p>パートナー: 宇都宮空き家会議、宇都宮大学ニューフロンティアプログラム</p>					
		<p>情報発信 <WEB></p>	通年	当会事業所	6名	<p>A:124,091 B:2,953(+49)</p>	

		A: HP <SNS> B: Facebook C: twitter(ユース) D:Instagram(新設)				C:1,643(+27) D:261	
		取材・新聞掲載等 下野新聞、日本経済新聞等、	通年	当会事 務所	6名	13件	